




様式第4号（第7条関係）

令和 6年 6月24日

東かがわ市議会議長
渡 邊 堅 次 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)
氏名 田中久司 

行政視察等報告書

| | | | |
|---|---------|------------------------------|----------|
| 1 | 日 時 | 令和6年5月27日～5月28日 | |
| 2 | 参加者 | 田中久司、工藤潔香、渡邊堅次、山口大輔、淀紀清、小松千樹 | |
| 3 | 研修目的等 | 内 容 | 研修場所 |
| | | 議会広報について | 東京都あきる野市 |
| | | トキワ荘マンガミュージアムについて | 東京都豊島区 |
| | | 「そうかりバージョンまちづくり」について | 埼玉県草加市 |
| 4 | 研修・調査内容 | (別紙報告書のとおり) | |
| 5 | 研修成果 | (別紙報告書のとおり) | |
| | | (感想・今後の取り組み等) | |
| 6 | 費 用 | 82,490 円 | |

※領収書（交通費・宿泊費の明細が分かるもの）、研修資料を添付してください。

行政視察研修報告（令和6年5月27日～28日）

報告者：田中久司

【第1日】

- ・視察先：東京都あきる野市 議会広報について

【第2日】

- ・視察先：東京都豊島区 トキワ荘マンガミュージアムについて
- ・視察先：埼玉県草加市 「そうかりノベーションまちづくり」について

■あきる野市「議会広報について」

<講師>

あきる野市議会広報広聴委員会 中村副委員長、国松委員

<経緯>

平成23年10月、市民との距離をいかに縮めるかという観点から、まずはアンケートを実施する。

アンケートは、市役所玄関に全国から集めた議会広報紙を30件掲示し、市役所を訪れた市民が直接投票をする人気投票の形式で行うなど、話題を呼ぶ。ちなみにあきる野市議会広報紙に投票した市民はわずか4%であったとのこと。

調査研究チームを超党派（議員3名、事務局1名）で結成し、半年間（15回）の協議を重ね、アンケートに基づく客観的な根拠をベースにリニューアルモデルを検討、最終的に全国の先進事例を参考に表紙やデザインを決定、議会で承認され、平成25年2月に第70号リニューアル版「ギカイの時間」の発刊に至る。

<研修内容>

今回の研修で一番感じたことは、編集する側の論理でいくら情報発信しても、読者（市民）が読まなければ何の意味もないということである。

あきる野市の議会広報紙は、一人でも多くの人に読んでもらうために、いかに読みやすい紙面にするかを第一義として掲げ、様々な工夫をしている。（以下）

- ・各号によってターゲットを変え、市民に身近な特集記事を掲載する。時間を掛けて全てのターゲット（新規読者）を獲得していく。
- ・広報広聴委員会が伝えたいことと、市民（読者）が見たいことは内容が違うことを理解する。
- ・議案審議については、議会広報紙だからといって、すべてを掲載することにこだわらず、市民の関心度で3つ程度に絞って掲載する。思い切ったテーマの絞り込みが必要。

- ・文字が多い紙面は読みづらく、余白をうまく活用する事で見やすさを心がけている。
- ・議員が提出する活動レポートは短く、簡潔に。長い文書を書いてきた場合、再提出をしてもらう。
- ・裏表紙は、小学生が夢を語るコーナーや、スケジュールや啓発的な記事を掲載。
- ・表表紙と特集記事をリンクさせる。
- ・一般質問の Q&A は簡潔に、写真は小さくし掲載部分を大きくする。
- ・まず大枠を決め、その後詳細な内容を考える。

<研修成果>

広報紙の編集の考え方について参考になる意見を数多く聞くことができた。当初は、あきる野市議会の中でも旧来の様式を継続すべきという意見もあったが、調査チームの粘り強い調査研究を重ねてリニューアルにこぎつけたという印象を受けた。

1人でも多くの市民に読んでもらうことを主眼とし、市民のアンケートに基づく客観的な根拠をベースに紙面構成を考えたことが、結果としてより市民目線に立った議会広報「ギカイの時間」発刊につながったと考えている。

■豊島区「トキワ荘マンガミュージアムについて」

<講師>

豊島区文化商工部 文化観光課 課長、課長補佐

<背景>

トキワ荘は1982年に解体されたが、かつては手塚治虫を筆頭に多くの著名な漫画家が住んでいたことで、その歴史的重要性から多くの漫画ファンや研究者からの関心が集まり、豊島区では文化財としての保存・伝承の意識が高まり、トキワ荘とその住人たちの功績を伝えるための施設として、マンガミュージアムの建設が検討されるようになる。

トキワ荘マンガミュージアムは、トキワ荘の歴史と文化を継承し、次世代に向けて発信するために、元のトキワ荘が位置していた場所の近くに、トキワ荘を再現した建物として再建され、2020年に正式に開館した。

<研修内容>

トキワ荘マンガミュージアム内を見学後、区職員の方々の説明を聞く。平成11年の（仮称）トキワ荘記念館建設の陳情（4,000人を超える署名）から平成20年のトキワ荘記念碑設置実行委員会発足までの間は、資金不足の時期が

続いていたが、平成 23 年トキワ荘通り協働プロジェクト協議会が発足してからは、漫画家を目指す若者支援事業やイベント、情報誌発刊など、徐々に事業が動き始める。

平成 28 年 7 月、ミュージアム整備構想が発表され、整備に向けての検討が始まり、4年の月日をかけて、ようやく令和 2 年 7 月トキワ荘マンガミュージアムの開館に至る。

<研修成果>

建物があるのは、住宅地や商店街のある公園の一角だが、元々スポーツ公園だったとのこと。記念のモニュメントや、建設に協力した企業、地元篤志家の方々の名前の入ったパネルが立っており、説明では、総費用 9 億 7 千万円のうち、寄付金は 4 億 7 千万円を占めていると聞き、町をあげての事業であったことがうかがえる。

観光資源としても、豊島区は年間 1 億 7 千万円の管理運営費を掛けて運営しているが、外国人も含め、年間約 40,000 人（開館以来約 164,000 人）の来館数の実績となっている。

都内有数の集客を誇る池袋（乙女ロードなど）の近くに位置し、また近辺には多くの出版社やアニメ制作会社が集まるなど、立地面からも豊島区のアニメ文化を支えていることが理解できた。

■草加市「そうかりノバージョンまちづくり」について

<講師>

草加市自治文化部産業振興課 課長

草加市議会事務局 事務局長

<研修内容>

草加市は、東京都足立区と接していて、人口約 25 万人。市内在住者従業者の 36.4%が都内に通勤し、ベッドタウンとなっている。地元に対する愛着が低く、また市内で買い物をしないため、市内購買率が低く、お金が循環しないという問題を抱えている。空き家率は 9%（全国 756 位）と低く、空き家に悩んでいる自治体ではない。しかしながら、ベッドタウンであることから、次のような課題があり、未来への危機感を感じている。

課題点

- ① 市民間、世代間、市民と学生におけるコミュニティの不足
- ② 公共不動産の利活用の必要性
- ③ 都市型産業の不足

④ 寝に帰るだけのまち

これらの課題解決のため、平成 27 年度から「そうかりノベーションまちづくり」の取組を始めた。

＜そうかりノベーション構想＞

「そうかりノベーションまちづくり協議会」を設立

- ・家守会社（コーディネーター）
- ・不動産オーナー（遊休不動産の提供）
- ・事業オーナー（事業経営）

※草加市（再生戦略、規制緩和、金融支援）

＜リノベーションスクール＞（短期集中実践型スクール）

参加者が 6 人程度のグループに分かれて、公共空間や遊休不動産、実際のビジネスプラン等を題材に、講師陣のアドバイスを受けながら事業計画を 3 日間かけて作成、最終日には、不動産オーナーに事業化を前提とした公開プレゼンテーションを行う。地域に必要なサービス、市民が豊かになるビジネス、人が集まる仕組みなどを検討し、事業計画の実現を目指す。

＜研修成果＞

リノベーションスクールのメリットとして、

- ・3 日間で、具体的な案件の事業計画の作成、プレゼンまで至るスピード感
- ・講師陣のアドバイスによる安心感
- ・狭い地域に集中、短期間に展開することで変化が実感できる

＜参考点＞

- ・リノベーションスクールと銘打っているが、遊休不動産に事業付加価値を加えて商談会を行っていると言ったほうがわかりやすい。
- ・個別の不動産ごとにマッチングをさせていくのではなく、行政（草加市）主導で段階的に、複数案件の計画を実行していくことで、構想実現のスピードアップを図っている。
- ・本気で取り組む事業者に対し、伴走支援を担保し継続していくために、市では利子補給などを行うための専門部署を設置している。

以 上